

令和7年度 全国学力・学習状況調査に係る本市の結果公表

令和7年8月25日 公表

1 調査の概要について

(1) 調査のねらい

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、教育施策の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善を行うことをねらいとしています。

さらに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てていきます。

(2) 調査対象（参加者数）

ア 小学校第6学年（711人）

イ 中学校第3学年（734人）

※ 参加者数は、国語科の調査に関する参加者数です。

(3) 調査内容

○ 小学校第6学年：国語、算数、理科の学力調査及び、学習状況に関する質問調査（質問調査はオンライン方式で実施）

○ 中学校第3学年：国語、数学、理科の学力調査及び、学習状況に関する質問調査（質問調査はオンライン方式で実施）
（理科は、項目反応理論（IRT）に基づくCBT方式で実施）

○ 各小・中学校：学習指導等に関する学校質問

(4) 実施日

令和7年4月14日（月）～17日（木）

2 結果の概況について

(1) 学力の状況について

ア 小学校第6学年

	国語	算数	理科
始良市の平均正答率(%)	69.0	61.0	62.0
鹿児島県の平均正答率(%)	67.0	57.0	60.0
全国（公立）の平均正答率(%)	66.8	58.0	57.1

○ 全教科で全国平均を明確に上回っています。

○ 授業において、見通しをもって追究したり、「『何を』『何が』を明らかにしながら追究したりするとともに、学びの過程や成果を振り返るといった学習活動の充実」に各学校が努めた成果であると捉えます。また、基礎的・基本的な学習内容の定着のための取組を継続的に行ってきたことも要因となっていると捉えます。

○ 課題として、いずれの教科においても、状況に応じて必要な話題や情報を選択して考えたり、考えたことを筋道立てて説明したりする力をさらに伸ばしていく必要があると考えています。

イ 中学校第3学年

(※ 理科は IRT スコアで表示)

	国語	数学	理科
始良市の平均正答率(%)	55.0	47.0	500.0
鹿児島県の平均正答率(%)	53.0	45.0	493.0
全国（公立）の平均正答率(%)	54.3	48.3	503.0

- 県平均と比較すると、3教科とも本市が上回っているものの、全国平均と比較すると、数学、理科の2教科がわずかに下回っています。
- 3教科ともに、目的に応じて必要な情報に着目して考えを整理したり、整理した考えや考えの道筋を論理的に説明したりする力をさらに伸ばしていく必要があると考えています。また、考える基となる用語や語句をはじめとする基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っていく必要があります。

(2) 学習の状況について

調査結果の中で、全国の回答結果と比較して、特徴的な内容は次のとおりです。

- 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合が、小学校では全国よりと同程度であり、中学校ではやや低い。 **【自己肯定感】**
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあると思う児童生徒が多く、その割合は、小・中学校共に全国と同程度である。 **【ウェルビーイング】**
- 課題の解決に向けて自分で考え、取り組んでいると思う児童生徒の割合が、小学校では全国より高く、中学校では低い。 **【主体的な学習】**
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると思う児童生徒の割合が、小学校では全国より高く、中学校では低い。 **【自己調整】**
- 分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う児童生徒の割合が、小学校では全国より高く、中学校では低い。 **【省察力】**

(3) 今後の取組

本市は、「学力向上アクションプラン推進事業」を中心に、各中学校ブロックを単位とした共通実践、研究授業を通した研修会の実施など、学校・家庭・地域が一体となった学力向上の取組を推進しています。事業の趣旨や重点を踏まえ、各校では、自校の成果と課題を明確にし、実態に応じて重点取組内容を具体化して、学力向上の取組について引き続き取り組んでまいります。

3 家庭・地域へのお願い

学習習慣の定着のためには、落ち着いた心で学習に臨むことができる環境づくりや、学ぶ意欲を高める働きかけとともに、家庭学習の習慣化が大切です。各家庭では、低学年の時から家庭学習にしっかり取り組めるよう環境を整え、子どもたちのがんばりを認めることを中心にしながら、粘り強い声かけや励ましをお願いします。（4月当初に学校から配布される「家庭学習の手引き」を参考にしてください。）

子どもたちが将来の夢や希望に向かって努力できるよう、引き続き、学校・家庭・地域が協働した支援や働きかけをよろしくお願いします。